

## 千葉県国土利用計画地方審議会 議事概要

1 日時 平成17年8月29日(月) 午後1時30分から

2 場所 千葉県庁中庁舎3階第1会議室

3 出席者(委員)

加瀬会長、飯田委員、大野委員、岡田委員、親泊委員、加藤委員、近藤委員、佐倉委員、佐藤委員、篠塚委員、嶋田委員、鈴木委員、高橋(節)委員、高橋(洋)委員、長谷川委員、森田委員、山田委員、山本委員

4 議事

1) 開会

2) 新任委員の紹介

3名の新任委員(長谷川委員、湯浅委員、久我委員)を事務局より紹介

3) 議事

(1) 第4次千葉県国土利用計画の策定について

事務局より、今度策定作業に入る第4次千葉県国土利用計画の作業スケジュール等について説明した上で、意見交換。

(2) 審議会の公開について

事務局より、千葉県国土利用計画地方審議会の公開に関する取扱要綱(案)について説明し、原案のとおり公開していくことにつき了承された。

(3) 調査検討部会の設置について

事務局より、第4次千葉県国土利用計画の策定を踏まえ、専門的な視点から県土利用の問題点や課題を調査し、その解決方策を検討するため、本審議会に「調査検討部会」を設置することを提案し、原案のとおり部会の設置につき了承された。

4) 報告事項

先の国会で成立した「国土形成計画法」の概要について、事務局から報告した。

5) その他

その他全般にわたり意見交換。

6) 閉会

## 5 主な発言内容（順不同）

### (1) 第4次千葉県国土利用計画の策定について

例えば、市川市の妙典地先では、「行徳富士」といった問題がある。この問題は、ひとつの例に過ぎないが、これから、このような問題に対して対応をしっかりやってほしいということを要望したい。

県土利用の問題については、どれも大きな問題で議論しなければならないと思うが、どうも課題対策方の設定がされており、国土利用計画として、県土のビジョンについて、例えば自然と社会の調和とか、保全と利用をどうするのか、県民のモビリティをどうするのか、将来、県土をどのように使っていくのかということを書く必要があると思う。問題点を一つ一つぶしていくことも大事だが、計画には県土利用のビジョンを盛り込む必要があるのではないか。

今まで全国総合開発計画と国土利用計画が別にあったものが、今度国土形成計画で一本になること、これまでの開発優先から開発抑制、環境との調整型に計画の視点が変わっていくと考えられる。そこで、第3次計画までの右肩上がりの経済・社会からの転換が、これからの計画の大きな視点であり、第3次までの開発主導から、開発抑制・調整型の計画への転換、その中でどのようなビジョンが書かれるのかが重要と考える。

### (2) その他全般

これまでの審議会では、個別規制法の後追いで、今回やっと前向きな議論ができると思う。しかし、今回どのような立派な計画を作っても個別法で開発が認可されてしまえば、農地転用も開発もされてしまう。国土利用に限らずそうであるが、例えば千葉県の環境の問題ひとつをとっても、環境部が環境基準を決めて、農業や工業部門にはなかなか伝わらない。実際の事業となると各部別となってしまう。立派な計画をつくっても、個別開発に対して何ら効果が発揮できない。なぜ国は、その基本的な部分を改善できないかと疑問に思う。

審議会の進め方として、事務的な部分も多いわけであるが、委員が事務局に質問するだけでなく、もっと委員が自由に意見を交換できる形にしてほしいと思う。

法律により上位計画と位置付けがあるにもかかわらず、「色男、金と力はなかりけり」で形骸化している。平成13年度から制度の改正に向けていろいろなことが論じられてきたが、各都道府県からも、制度の改善について意見が出されたが実現しなかった。それは、日本の行政組織の力関係がたぶんに影響していると考

える。これまで、個別法が許可し開発されてしまった案件を、黙々と追認してきた。今回10年ぶりに新しく作るということに取り組むわけだが、また、過去みたいになるのではないかという懸念はある。しかし、形成計画法ができたように、計画が調整型・抑止型へと変化し、世の中が動いていることは確かだと思う。国の全国計画に沿って地方の計画が作られるという制度であっても、各都道府県が「こんな制度ではおかしい」ということを言い始めたこと、そして「千葉県はこういう計画を作るんだ」ということで国に反駁する。こういうことを繰り返しながら制度を変えていかざるを得ないのかなと思う。

この計画が、個別法の上位計画でありながら、力がないというのは実態だが、しかし逆に、この計画を基に県が各法律を施行する上で、やれることもずいぶんあると思う。「法律が変わればいい」といっても仕方がないわけで、それぞれの問題を県がどういう方向であるか、条例をつくるなど地方でできることで、がんばっていくしかない。

今回、部会で議論をするが、県民の声を聞きながらつくっていく仕組みをつくることが大切である。

これまでの第3次計画がどうなっているのか、その評価を踏まえて第4次の計画策定を行っていくべきである。